

●冬を迎える静かな公園に発見いろいろ。

木々の葉も落ちてスッキリとした公方様の森には、鳥たちの鳴き声が響き渡ります。てくてくお散歩しながら、のんびりバードウォッチングも良いですね。

○ 越冬のためにやってくるこんな鳥、あんな鳥

■寒い冬は鳥たちも、いつもの生活圏から暖かいところへ南下し、冬を越します。地面をピョンピョン飛び跳ねては餌を探す姿が特徴的な「ツグミ」は公園以外でも普通に見かける鳥です。



ツグミ



アカハラ

■同じツグミ属の「アカハラ」。名前の由来はズバリ「赤い腹」ですが、実際はオレンジ色。大きさはツグミと同じで24cmぐらいです。公園に来ていることは間違いありませんが、探さないとなかなか見かけないかもしれません。

■つづいて赤い腹が特徴的なこちらはアカハラ・・・ではなく、「ベニマシコ」と言います。ややこしいですね(笑)。ツグミより一回り小さく15cmぐらいの大きさです。紅猿子と書き、猿に似て顔が赤いことが名前の由来だそうです。

滋賀県では準絶滅危惧に指定されており、数は減少傾向にあるようです。 ※アカハラ、ベニマシコ写真提供：古河市小川さん



ベニマシコ

●ウソのようなホントの鳥

この「ウソ」という名前の鳥もこの時期に見かける鳥です。口笛のような鳴き声から、口笛を意味する古語「ウソ」の名がついたそうですよ。



ウソ

○ 実は一年中いるんです(留鳥)

■コンコンと木をつついて巣作りをする「キツキ科」の鳥。公園にもその一種「アカゲラ」「アオゲラ」などが生息しています。木をつつくときの強い衝撃を上手に吸収できる体の仕組みなんだそうですよ。

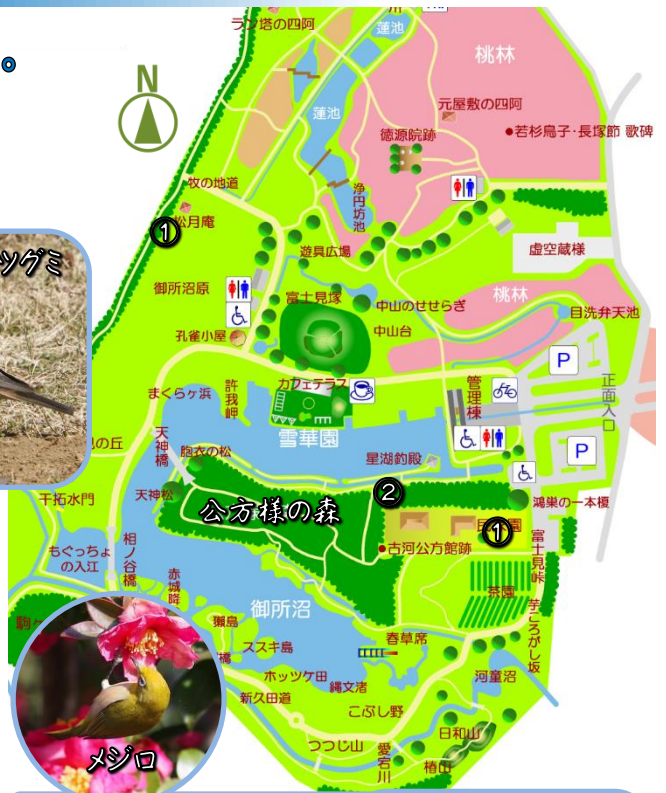


アカゲラ

■古河市の鳥でもあり、その鮮やかな青色が人気の「カワセミ」は、静かなこの時期に御所沼の水面をスーッと飛んでいく姿をしばしば見かけます。やはりその美しさは別格ですね。



カワセミ



○ 冬でも花が見たい!

① サザンカ

■童謡「たきび」に歌われている「サザンカ」が民家園他で見られます。よく似た「ツバキ」との簡単な見分け方は、花びらが散ってればサザンカ、花が丸ごとポトッと落ちていればツバキです。ちなみに、午前中はよく「メジロ」が蜜を吸いに来んでいますよ。



○ 草じゃなくて木なんです



② ヤブコウジ

■管理棟側から森を通して民家園への登り口、左側足元にたくさん生えている「ヤブコウジ」は、小さくて草の様ですが、常緑の小低木で、今の時期は赤い実を付けています。別名「ジウリョウ(十両)」とも呼ばれ、センリョウ(千両)やマンリョウ(万両)、カラタチバナ(百両)と共に正月の縁起物とされます。園芸植物として江戸時代には多くの品種が作られ、明治から大正にかけて大流行したそうです。中には現在の価値で1000万円するものもあり、投機の対象にもなったそうです。また落語「寿限無」の一節「やぶらこうじのぶらこうじ」は、このヤブコウジのこととされています。

●ちょっと寂しい冬の公園も楽しみ方はいろいろです。てくてく情報、次号もお楽しみに!